

## ⑫公表特許公報(A)

昭63-502017

⑬Int.Cl.<sup>4</sup>B 63 H 9/04  
9/06

識別記号

府内整理番号  
A-7723-3D  
A-7723-3D

⑭公表 昭和63年(1988)8月11日  
 審査請求 未請求  
 予備審査請求 未請求 部門(区分) 2 (5)  
 (全 7 頁)

⑮発明の名称 帆走翼

⑯特 願 昭61-500066  
 ⑰出 願 昭60(1985)12月5日

⑱翻訳文提出日 昭62(1987)8月4日  
 ⑲国際出願 PCT/US85/02407

⑳国際公開番号 WO87/03553

㉑国際公開日 昭62(1987)6月18日

㉒発明者 マグルーダ、トマス・エイ

アメリカ合衆国97031オレゴン州ホールド・リバー、ピー・オー・ボックス 89

㉓発明者 クローウエル、ロバート・エル

アメリカ合衆国28605ノース・カロライナ州ブローライング・ロット、ルート 2、ボックス 87

㉔出願人 マグルーダ、トマス・エイ

アメリカ合衆国97031オレゴン州ホールド・リバー、ピー・オー・ボックス 89

㉕出願人 クローウエル、ロバート・エル

アメリカ合衆国28605ノース・カロライナ州ブローライング・ロット、ルート 2、ボックス 87

㉖代理人 弁理士 山崎 行造 外3名

㉗指定国 A T(広域特許), A U, B E(広域特許), C H(広域特許), D E(広域特許), F R(広域特許), G B(広域特許), I T(広域特許), J P, N L(広域特許), U S

特許(内容に変更なし)  
請求の範囲

1. a. 着手を支持するようにされた艇体  
 b. 飛行方向にはば整合する対称軸線を有し、ロール軸、ピッチ軸およびヨー軸の回りに運動自在である艇、  
 c. マスト  
 d. 前記マストを前記艇体に連結する下方繩手、  
 e. 前記マストに対してロール方向に前記翼を駆動させるように前記翼を前記マストに連結するが、ピッチ方向の相対運動に対して拘束されており、それにより中間の揚力位置を経て左舷タック位置と右舷タック位置との間で前記翼をロール(横振れ)させることができる、上方繩手;  
 を有し、前記繩手の1つがヨー(横振れ)方向の相対運動を与える帆走装置。
2. 前記繩手は、前記マストと艇体の間でロールおよびピッチ方向の相対運動を可逆にするが、前記マストから艇体へ引張り力および圧縮力を伝達する自在継手である、請求の範囲第1項に記載の帆走装置。
3. 前記艇体は、それが水中を運動する時に着手を支持するようにされたサーフボードである、請求の範囲第2項に記載の帆走装置。
4. 前記上方繩手はさらに180°を超えてロール方向に駆動しないように拘束され、それにより中間揚力位置を経て最大左舷タック位置と最大右舷タック位置との間で前記マストに対して前記翼をロールさせることができ、

最大左舷タック位置と最大右舷タック位置において前記翼およびマストが一体でロールする、請求の範囲第3項に記載の帆走装置。

5. 対称軸線の両側にあって、前記翼をロールさせるように乗手によって操作し得る手動制御支柱を有する、請求の範囲第4項に記載の帆走装置。

6. a. 舟  
 b. ほぼ硬質の支持材  
 c. 前記舟を前記支持材上に張るための装置;  
 を前記翼が含む、請求の範囲第1項に記載の帆走装置。
7. 前記ほぼ硬質の支持材からほぼ前記対称軸線にそって抜き差し自在に延長される支柱と、グブと、前記支柱差し自在に延長される支柱と前記翼の間で前記グブを張る装置と、を含む引込み式前縫フックを前記翼が有する、請求の範囲第6項に記載の帆走装置。
8. 前記制御支柱が前記舟と前記艇体の間で前記翼のはば硬質の支持材に取付けられ、前記マストに係合するよう配置され、最大左舷位置と最大右舷位置にて前記翼およびマストの間の運動を制限する請求の範囲第6項に記載の帆走装置。
9. 前記翼が90~160°の2箇角を有する、請求の範囲第8項に記載の帆走装置。
10. a. 艇体が水中を運動している時に着手を支持するようにされたサーフボード艇体、  
 b. 前記艇体に対するマストの自在運動を可能にし、